

JA全農ウィークリー
WEEKLY

2
面

「共同購入トラクター」第2弾に着手

(耕種資材部)

5面

「防疫マニュアル」の重要ポイント①上（畜産生産部）



「防疫マニュアル」の重要ポイント。消毒の前に泥落としマットで靴底の汚れを落とす(5面)



捕まえた生きものを観察する親子＝山梨県
北杜市で(6面)



メーカーに対し、中型クラスの共同購入トラクター開発要求書を読み上げる富田健司耕種資材部長(2面)

- ## 2 「農福連携導入ガイド」を作成 (耕種総合対策部)

- ### 3 大阪の商談会に全農グループ会社と 共同出展(営業開発部)

全農ブランドをバイヤーにPR
(くらし支援事業部・輸出対策部)

- #### 4 県内の高校生対象に 「お好み焼甲子園」開催(新潟県本部)

新規事業提案制度 2年目の取り組み スタート(経営企画部)

- ## 6 各県本部が田んぼの生きもの調査

- ## 7 JAズームイン(JAおいしいものがみ)

- 8 10月2日「直売所の日」に合わせキャンペーン
(広報・調査部)

8月31日(やさいの日)新宿高島屋で
「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」
公開生放送(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

お肉の宅配 肉市場(兵庫県)

(JA全農ミートフーズ株式会社 西日本営業本部)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

卓球・ブルガリアオープン
日本産米を使用した寿司をPR
(広報・調査部)

News!



「農福連携導入ガイド」を作成

JA・地域の農福連携の取り組みをサポート

耕種総合対策部

全農は、全国のJA・地域が農福連携に取り組むに当たっての手引として「農福連携導入ガイド」を作成しました。

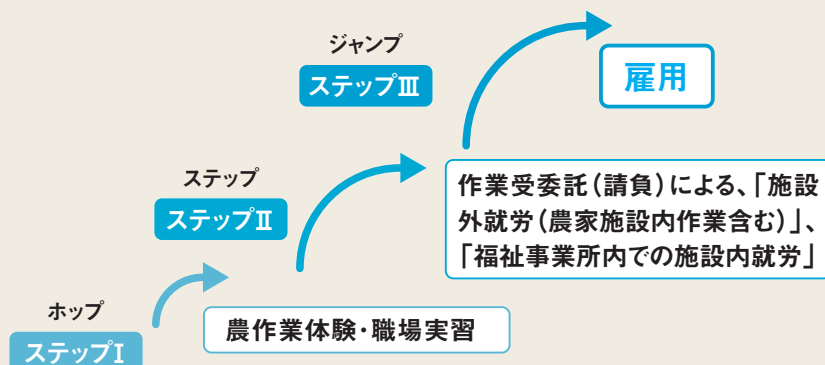
今回作成したガイドでは、農福連携の基礎知識をはじめ、取り組み手順、先進地での優良事例や行政による補助金などについてまとめられています。

農福連携は、農業労働力不足の解決だけではなく、障がい者の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを出し、社会参画や自立支援につながる取り組みです。

取り組みに当たっては、障がい者の働き方や農家の農作業の内容をお互いに理解した上で段階的に進めることが重要です。

行政をはじめとする関係機関と連携して農福連携の取り組みを拡大すること、地方創生の実現を目指します。

障がい者就労のステップ



お問い合わせ先：耕種総合対策部 TAC推進課 03-6271-8276

News!



「共同購入トラクター」第2弾に着手

中型クラスのトラクターをメーカー4社に開発要求

耕種資材部

全農は、生産資材のコスト低減を目指すJAグループ自己改革の一環として、トラクターの共同購入で第2弾となる取り組みに着手しました。

第1弾として取り組んだ大型トラクター(60馬力クラス)に続き、今回は中型トラクター(28〜35馬力クラス)の共同購入を行います。①1万人を超える生産者アンケート②生産者代表との意見交換——などを基に生産者が求める機能をまとめました。

6月27日に国内農機メーカー4社(井関、クボタ、三菱、ヤンマー)に仕様を提示し、令和2年7月製品発表、10月供給開始に向けて、開発要求を行いました。目標台数は2000台(令和2〜4年の3カ年)とし、

メーカー4社に要求した主な仕様

- 自動水平制御
- 自動耕深制御
- 倍速ターン
- ノークラッチ変速
- 標準3点リンクのオートヒッチ装着可能(※)

(※) 中型クラスのトラクターは、メーカーごとに作業機の取り付けヒッチが異なりますが、生産者からはヒッチ統一への強い要望があります。ヒッチ統一によって、幅広い作業への対応を可能にし、生産者の生産面積や栽培品目の拡大を支援します。



メーカーに対し開発要求書を読み上げる富田健司耕種資材部長

今秋から生産者の事前申し込みを始め、積み上げた台数を背景に全農がスケールメリットを生かして一括して仕入れることで、価格の引き下げにつなげます。



大阪の商談会に全農グループ会社と共同出展

「働く女性を応援」をテーマに簡単・時短メニューで商品提案

営業開発部



パネルや動画で全農グループ各社を紹介

この商談会には268社が出展し、1万3720人が来場しました(前回1万1121人)。
全農グループのブースでは、「日本全国の産地から働く女性を応援します！」をテーマに簡単・時短メニューで商品提案を行いました。すき焼きには飛騨牛、黄身色が濃く肉にからみやすい卵「とくたま」、下処理・

営業開発部は7月4、5日、大阪市内で開かれた「フードストアソリューションズフェア2019」に全国農協食品(株)、JA全農青果センター(株)、JA全農たまご(株)、全農チキンフーズ(株)、株吉田ハム、協同乳業(株)、くらし支援事業部と共同出展しました。



各社コラボメニューのすき焼きを提供

加熱済み野菜「みんなのやさい」を使用し、とり天丼には冷凍とり天、温泉卵、もち麦ごはんを使用して来場者に提供しました。
また、ビーツを使用した粉末ドリンク(開発中)なども展示し、160社以上と商談の機会を得ました。
今後も全農グループ会社と共同で、JFフードサービスバイヤーズ商談会、JAグループ国産農畜産物商談会への出展に取り組みます。



全農ブランドをバイヤーにPR!

日本アクセス展示会「秋季フードコンベンション2019」に出展

くらし支援事業部・輸出対策部



スーパーマーケットのバイヤーなど多数の客さまが訪れた全農ブース

この展示会は東日本地区のスーパーマーケットやドラッグストアなどのバイヤーを中心に約1万1000人が来場し、全農ブースにも多くのお客さまが訪れました。商品は、売れ筋であるドライフルーツ13種・もち麦ごはん・冷凍野菜・海外輸出用開発商品の他、新規商材を中心に約60品を展示しました。
バイヤーからは、「国産ドライフルーツ・野菜がここまでそろえられるのはすごい」「全農のマークがお客さ

くらし支援事業部と輸出対策部は7月24、25日、さいたま市のさいたまスーパーアリーナで開催された日本アクセス展示会「秋季フードコンベンション2019」にブース出展しました。



展示した海外向け商品

まに安心感を与える」など商品原料や全農がメーカーポジションとして商品を発売する意義を評価する声が多く、たくさんバイヤーから商品サンプルや見積書の依頼がありました。併せて全農の輸出事業の取り組みとして海外向け商品や事業内容を紹介し、多くの来場者に全農の幅広い取り組み内容を知っていただく機会となりました。
今後、商談案件の成約に向けて、個別に商談を積極的に行っていくとともにこのような機会を通じ、国産農産物のアピールに努めます。

News!



県内の高校生対象に「お好み焼甲子園」開催

優勝は新発田農高の「コシヒカリシスターズ」

新潟県本部

お好み焼を作る高校生



出場条件は、「地元の特産品を1品以上使用したお好み焼を考案すること」で、書類選考を通過した8チームが出場しました。

創意工夫を凝らしたお好み焼が披露される中、優勝したのは新発田農業高校の「コシヒカリシスターズ」でした。

新潟県本部は7月28日、新潟県内の量販店や食品・飲料メーカーなどと連携し、新潟市中央区のいくとぴあ食花で県内の高校生を対象としたお好み焼甲子園を開きました。

優勝した新発田農業高校「コシヒカリシスターズ」のお好み焼



リカリに焼いたシラスで食感にもこだわった一品となりました。

このお好み焼は、10月に新潟県内の量販店で販売する予定です。

参加した高校生からは、「地元の特産品を知る機会になった」「地元の特産品をPRできて良かった」などのコメントがあり、これからを担う世代に地元の食を考えたもらえる場となりました。

全農創立50周年に向けた記念プロジェクト

Zennovation

2018-2022

全農イノベーションチャレンジ

新規事業提案制度「Zennovation」の2年目の取り組みがスタートします! 【経営企画部】

全農は、既存の枠組みや固定概念にとらわれない新たな事業発掘を目的に、新規事業提案制度に取り組んでいます。

昨年度から、従来の新規事業提案制度を刷新し、全農創立50周年に向けた記念プロジェクト「Zennovation 2018-2022」として5か年プロジェクトを開始しました。2022年までの5年間で、私たち全員が、新たな取り組みに挑戦しイノベーションを創出する文化の創造を目的としたプロジェクトです。

2年目となる今年は、ニーズを考えるテーマとさせていただきました。仲間と事業プランをつくり、事務局までご応募ください。たくさんご応募お待ちしております!

今年のテーマ

～新しいニーズを掘り起こそう～

応募期間 9月1日～10月31日

応募資格 全農職員・グループ子会社・子法人など社員による3人以上のチーム

※詳細は、ポスター・パンフレットをご確認ください。

問い合わせ先

JA全農 経営企画部
Zennovation事務局

問い合わせは
こちらから





「防疫マニュアル」の重要ポイント①

豚コレラの発生が続いています。JAグループ全体で防疫のさらなる強化を目指すべく「防疫マニュアル」の配布と講習会を実施しています。マニュアルの重要なポイントを全3回にわたり紹介します。第1回は、さまざまな人が往来する事務所・倉庫・農場などの入り口で欠かせない、靴底・手指の消毒についてです。

【畜産生産部】

靴底・手指の消毒



靴底の消毒

消毒液をマットに染み込ませ、入り口に設置します。

- 1 泥落としマットを消毒用マットの手前に設置します。泥や汚れは消毒液の効果を弱めるので、消毒用マットを踏む前に靴底の汚れを落とします。
- 2 消毒用マットには両靴底の全面をつけ、2～3回足踏みし、消毒を行います。
- 3 消毒用マットは乾燥しやすいため、消毒液がしっかり染み込んでいることを日々確認しましょう。



消毒の前に泥落としマットで靴底の汚れを落とす



消毒用マットには両靴底の全面をつける



手指の消毒

入り口に消毒用アルコールを設置します。

- 1 自動手指消毒器、ハンドスプレーのいずれの場合でも、両手の平・手の甲にしっかりとするまでまんべんなく噴霧します。
- 2 消毒液を指の間にもみ込みます。



両手の平・手の甲にまんべんなく噴霧する



消毒液を指の間にもみ込む

消毒マット・装置の設置場所、消毒薬の希釈方法など詳細については、マニュアル・動画をご確認ください。全農畜産総合情報サイト「JACCネット」から閲覧できます。



ご意見・ご要望などございましたら、お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先：全農畜産生産部推進・商品開発課 TEL:03-6271-8236 FAX:03-5218-2526

今回は、畜産関連施設を訪問した際の車両の洗浄・消毒について紹介します(9月9日号掲載予定)。

防疫講習会を実施中！(岡山県のJA勝英)

岡山県のJA勝英で8月6日、防疫講習会が開催されました。家畜伝染病と防疫について、家畜衛生研究所クリニック西日本分室の鈴木悟郎室長が説明しました。来賓やJA担当者など71人が参加し、最大規模の開催となりました。



あいさつするJA勝英の内藤敏男組合長



防疫管理について説明する鈴木室長



水田が果たす役割を学ぶ



各県本部が田んぼの生きものの調査

各県本部は、子どもたちを対象に田んぼの生きものの調査を行っています(今年度は13県本部で実施)。参加した子どもや保護者は、多様な生きものを育む田んぼの役割などについて理解を深めていました。【各県本部】

秋田県本部



秋田県本部は6月10日～7月9日、JA秋田たかのす、JAあきた白神、JA秋田おぼこ管内の10の小学校で「田んぼの生きものの調査」を行いました。

虫かごと網を持った子どもたちは、田んぼの中に素足で入り、水中の生きものを目を凝らしながら探していました。また、田んぼの周りでも生きものや植物を採取し、種類別に仕分けした後、動物図鑑や植物図鑑を使って名前を調べ調査用紙に記録しました。



目を凝らし生きものを探す子ども(上)と、捕まえた生きものを観察

神奈川県本部



神奈川県本部は6月22日、JAかながわ西湘管内の給食用米が育つ水田で「田んぼの生きものの調査」を行いました。

子どもたちは、泥の中を慎重に歩み進めながら20種類の生きものを捕まえ、「こんなにたくさんいるとは思わなかった」とうれしそうに話していました。

調査後は水田の多面的機能について学び、県本部職員は「田んぼや生きものを守るためにも、給食のお米をたくさん食べよう」と呼び掛けました。



網と虫かごと手に、田んぼで笑顔を見せる子どもたち



図鑑を手に捕まえた生きものを調査

山梨県本部



山梨県本部は6月29日、北杜市で「田んぼの生きものの調査」を行いました。参加者は、山梨県本部の農産物直売所「たべるJA(じゃ)んやまなし」を利用している一般消費者・県内の小学生を対象に募集し、約30人の親子が参加しました。

参加者は田んぼに入ると、親も子も歩くのに苦戦しながらも泥の感触を楽しみながら水面に顔を近づけ、目を凝らし夢中で生きものを探し回りました。



捕まえた生きものを観察する子どもたち



目を凝らし田んぼの生きものを探す親子

三重県本部



三重県本部は6月上中旬、県内2JAと協力して「田んぼの生きものの調査」を行いました。

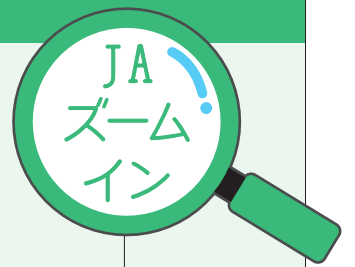
JA伊勢では、小学3・4年生を対象とする「あぐりスクール」のカリキュラムで、JAいがふるさとでは、名張市立薦原小学校の稲作体験学習で開きました。子どもたちは、たも網を手に夢中になって生きものを捕まえ、図鑑で名前を調べたりスケッチをしたりして、熱心に取り組みました。



あぐりスクールで生きもの調査(JA伊勢)

稲作体験学習で生きもの調査(JAいがふるさと)

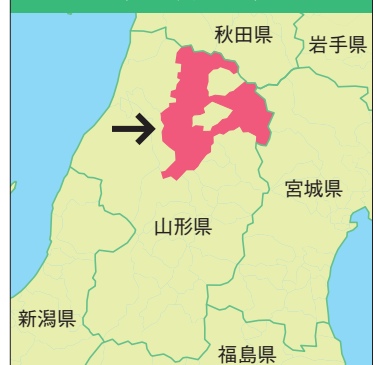




選果場の共同利用で

園芸特産物を安定出荷

JAおいしいもがみ (山形県)



概要		平成31年3月31日現在
正組合員数	6265人	
准組合員数	2171人	
職員数	326人	
販売品取扱高	120億8千万円	
購買品取扱高	75億9千万円	
貯金残高	644億2千万円	
長期共済保有高	2840億3千万円	
主な農産物	米、アスパラガス、ニラ、トマト、ミニトマト、キュウリ、ネギ、きのこ	

JAおいしいもがみは平成30年4月、JA新庄もがみ、JA山形もがみ、JA真室川町の3JAが合併した1市3町3村の広域JAです。最上地域は周囲を高く険しい山々に囲まれ、総面積に対する森林の割合が8割近くを占めており、南部から西部にかけて最上川が貫流しています。

気候条件生かし 園芸作物を振興

夏は高温多湿、冬は積雪寒冷地帯で、気候の寒暖差が織り成す風土が、良質な農作物を作り上げる理由の一つでもあります。

組合員数は約8500人（准組合員含む）で、販売事業の取扱高は約

121億円です。中でも米穀と畜産を除いたニラ、アスパラガス、キュウリ、トマト、きのこなどの園芸販売高の合計は55億円を超え、県内1位で園芸振興が進んでいます。

多品目の園芸栽培の出荷を支えるのが、管内営農センターに数多く点在する主要品目野菜の選果場です。トマト選果場は大蔵（大蔵村）に1カ所。アスパラガ

ス選果場は北部（新庄市）、東部（最上町）で2カ所あり、ネギ選果場は北部（新庄市）、南部（舟形町）、東部（最上町）、大蔵（大蔵村）、大豊（鮭川村）と5カ所にあります。

合併のスケールメリットで 全域対象の選果場利用も

昨年の合併当初から、スケールメリットの一つとして、旧JAの枠を越え新た

に共同利用を始めたのが、全域を対象に取り扱っているミニトマト選果場の

大蔵（大蔵村）、キュウリ選果場の大豊（鮭川村）です。ミニトマト選果場は今後の増産を見越して設備を増強しており、キュウリ選果場の処理能力は1日最大12ト（約2400ケース）、最大予冷量12ト（3000ケース）。広域での利用者が約95人と管内では最大規模の共同利用選果場となっています。

ミニトマト部会、きゅうり部会の構成員は、共同の選果場を利用することで、栽培技術の向上に向けた研修会や技術講習会を定期的に合同で行うなど、お互いに栽培情報を共有し良品生産に努めており、安定出荷と信頼される産地づくりを目指しています。



管内の園芸を支える上からトマト選果場、アスパラガス選果場、ネギ選果場、ミニトマト選果場、キュウリ選果場

直売所で買い物して お米やお肉を当てよう

10月2日「直売所の日」に合わせキャンペーン

JAグループは8月31日~10月31日、JAファーマーズマーケット(直売所)での買い物でお米やお肉が当たるキャンペーンを実施します。
【広報・調査部】

JAグループでは、10月2日の「直売所(ファーマーズマーケット)の日」※に合わせ、地元農畜産物の販売のみならず、准組合員や地域住民との接点としても重要なJAファーマーズマーケットの利用促進を図っています。

今回のキャンペーンでは、8月31日(やさいの日)~10月31日の間、JAファーマーズマーケットで2000円(税込)以上お買い上げのレシートを郵送して応募すると、抽選でお米やお肉が当たります。

なお、実施店舗につきましては、全農ホームページ「日本の食を味わう」から「JAファーマーズマーケット」をご確認ください。

※「採れ(10)たてに(2)会おう」の語呂合わせなどから、JAグループが昨年度登録したもの(一般社団法人日本記念日協会が認定)

全農ホームページ「日本の食を味わう」はこちらから>>>




直売所の情報(入荷状況など)については、
スマートフォンアプリ「JA句みっけ!」をご活用ください。

ダウンロードはこちらから>>>>>



※iOSでは10.0、Android OSでは6.0より前のバージョンの場合、ご利用頂けない場合があります。

8月31日(やさいの日)午後1時から 新宿高島屋で

全農 ZEN-NOH
COUNTDOWN JAPAN

公開
生放送

8月28~31日に東京・新宿の新宿高島屋でJAグループが行う「知って食べればもっと好きになる! JAやさい体験」に合わせて公開生放送が行われます。ゲストに日本を代表するヒップホップ・アクティビストで、週刊誌『AERA』で「多彩な野菜」というコラムを連載するZeebra(ジブラ)さんをお迎えします。
【広報・調査部】



JAタウン ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

お肉の宅配 肉市場(兵庫県) (JA全農ミートフーズ株式会社 西日本営業本部)



JAタウンは
こちらから



【祝!!6周年祭】黒毛和牛 焼肉セット 【冷蔵】国産黒毛和牛三角バラ200g、肩ロース200g、カタ200g、……7332円

【祝!!6周年祭】黒毛和牛スジ・カイノミセット
【冷蔵】数量限定(各300g)……8800円

最近では高性能なホットプレートが人気を集めていますが、ご家庭で本格的な焼肉を楽しむいただける黒毛和牛をご紹介します。

JA全農ミートフーズ(株) 西日本営業本部が運営する「お肉の宅配肉市場」のご家庭向けお肉は、黒毛和牛を発送当日に丁寧にカットし、冷凍せずに冷蔵のままお届けします! 一口食べれば納得のおいしさです。

ショップでは8月31日まで「6周年祭」を開催しており、みなさまに感謝の気持ちを込めたお買い得商品をたくさんご用意してお待ちしております!

お店をされている方向けの業務用、家族団らんぴったりのご自宅用、そして大切な方に食べていただきたいご贈答用のお肉なら、「お肉の宅配 肉市場」にお任せください!

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。